



7月発信



「七夕の季節とあかえ」 むし暑い日が続きます。  
 病児保育室は、お子さんにとって、毎日行く保育園と違い  
 一時的にこの場所、病気がで「静かにしてあげたい場所、という  
 気持ちを持って入室していただけます。  
 病気のつらさもかわり、目い、ほい、ゆかまをきてほしいなと思  
 います。一才 命令、性格、病児は種類、程度も大なり  
 違います。色々な状況の違う一人ひとり、しっかり受けとめる  
 わが子も課題は色々、生活リズムもそれぞれ、遅いから食事  
 管理栄養士が管理の下、食事量、慣え一人ひとりに合わせて考  
 考慮しています。



女医先生のお話

病気のお子様をお預かりするこの事業は、常滑市から委託  
 委託されている事業です。そこに、小児科医の私と  
 スタッフと、ともに、誠実にやっております。  
 台風が続けてくるという気候の中、むし暑いですが  
 病気の子は、お家で、どうしているかなと、窓の外を眺めて  
 「骨折で歩けない子も、病気で熱のある子も、口内炎で  
 食事が食べられない子も、皆「集まれ」と、言いたくなり  
 ます。お仕事をもちのお母様、お父様、お家の方々が、  
 お子様の病気の為、お仕事を、行事を休まれたら、物  
 シワヤセが、はずどこかに生じます。もっと広い気持ち  
 で、当キズアザガも利用して下さい。リラックスした親子関係が  
 続きます。

